

令和5年度 藤島地域教育振興会議（第6回） 会議録（概要）

1 会議の開催概要

○日 時 令和5年8月9日（金）18時30分～20時15分

○場 所 藤島地区地域活動センター大ホール

○出席委員 17人

齋藤昭彦、高橋和夫、成田信一、高橋俊一、近藤直志、菅原治、
今野貴行、須貝高貴、中田英幸、高橋広剛、佐藤謙、安在堅、
前田範子、渡部高生、遠田良弘、井上佳奈子、武田洋

○市出席者 〈教育委員会〉

教育長 布川敦、教育部長 永壽祥司、参事兼管理課長 清野健、
学校教育課指導主幹 渡邊智、管理課課長補佐 奥山真裕

〈藤島庁舎〉

支所長 成田譲、総務企画課長 小林雅人、市民福祉課長 出村真一、
総務課企画課課長補佐 後藤春雄、総務企画課地域まちづくり企画調整主査
齋藤優

○傍聴者 7人

○会議次第

1 開会

2 挨拶（藤島地域教育振興会議委員長）

3 報告

（1）鶴岡型小中一貫教育基本計画策定の進捗状況 資料No.1

（2）保護者説明会及び保護者アンケート結果 資料No.2—1～8

4 説明・協議

（1）第5回会議、保護者アンケート等を踏まえた論点整理 資料No.3—1～3

5 その他

6 閉会

2 会議録

■次第3 報告

(1) 鶴岡型小中一貫教育基本計画策定の進捗状況

(委員長) それでは報告(1)について事務局より説明をお願いします。

(学校教育課指導主幹) 資料No.1を説明

(委員長) ただ今の報告に質問あるか。

(委員) 計画策定メンバーは各地域から選出されているように見受けるが、朝日、温海の地域代表がないのはどういう経緯か。

(学校教育課指導主幹) ある程度のまとまりの中で委員を選んだ。例えば櫛引と朝日なら朝日地域の委員のように選んでいる。

■次第3 報告

(2) 保護者説明会及び保護者アンケート結果

(委員長) 次に報告(2)について事務局より説明をお願いします。

(管理課長) 資料No.2—1～8を説明

(委員長) ただ今の報告に質問あるか。

(委員) アンケート回収率が15%であり、説明会等で周知をしたとのことだが、この回収率を事務局はどのように考えているか。

(管理課長) 事務局で回収率の原因を議論したが、例えば学校の形態を明らかにし、それについてのアンケートであれば回収率も高くなったかもしれない。今回のアンケートのテーマは、藤島地域でどのような学校形態になるか分からない前提であったため、関心が高まらなかったのではと考えている。一方、関心が高い方々からは説明会等にも参加いただき意見を頂いたと認識している。

(委員長) 地区説明会でも参加者が少なく、その中でも保護者の参加が少なかったことから、今回のアンケートでは、事務局が保護者に対して働き掛けし、また、学校も協力を呼び掛けるなど、かなりの努力をして頂いたと受け止めている。その上での15%の回収率となったが、これについては、前回お話したとおり、漠然としているところが大きいため、意見を述べるにしても具体的にお話しできないということもあるのでは。その中で、関心を持っている方々からはご意見を頂いていると受け止めている。他に質問はないか。なければ報告を終了する。

■次第4 説明・協議

(1) 第5回会議、保護者アンケート等を踏まえた論点整理

(委員長) それでは説明・協議(1)について事務局より説明をお願いします。

(管理課長) 資料No.3—1～3を説明

(委員長) 藤島地域教育振興会議としての議論をまとめるにあたって論点が3つ提示され、それについて委員の意見をお聞きしたいとのことである。藤島地域教育振興会議として1つにまとめるものではないので、各委員からお考えをご発言頂きたい。なお、前回よりも踏み込んだ形で、論点①では、小中一貫校の形態や既存のままでよいという考えをどう扱うかご発言頂きたい。論点②では、学校の再編統合について具体的にどこどこを統合すべきか。また、それに伴って学校がなくなる地区には、論点③としてどう対応していけばいいのか。論点に沿った形で具体的にお考えをお聞かせいただきたい。それぞれの形態についてのソフト面での課題や不安はあるかと思うが、それらについては、最終報告書に盛り込まれていくものと認識している。来年度から藤島ブロックとしての小中一貫教育の具体計画を検討していくわけだが、その中でも検討して頂くよう引き継いでいくものである。その後、形態がさらに具体化し新校を立ち上げるための組織等ができた場合、そこにも間違いなく引き継いで頂かなければならないので、事務局では記録を遺漏なく引き継げるよう準備をお願いしたい。それでは、一人ずつご発言頂きたい。なお、義務教育学校として、藤島地域全体で小学校も中学校も1つの校舎にして進めたほうが良いという場合、論点②はすでに明白なので省略して頂き、学校がなくなる地域への対応で何か配慮したほうがよいことなど合わせてお願いしたい。

(委員) この課題について小学校の統廃合というような目では考えていない。次の新しい時代の学校をどう考えていくのか。明治時代に学校制度になって、終戦後に新しい学校制度になったが、それと同じくらいの改革と思う。統廃合ではなく、社会人として自立して社会に役立つ人間を育てることが中学校までの一番目標なので、その部分をどのように地域で考えて取り組むのか。一度、学校を建てれば50年間はそのままである。50年間どのようにしたら、これからの社会で役割を果たしていく学校になるのかと考えた場合、統廃合と考えていない。幼稚園から中学校までの考え方をどうするのか、保育園・幼稚園を含めたものをどうするのか。課外の放課後のあり方を今後考えるときに、地域でどう支えるのか、父兄がどう支えてそれをバックアップしていくのか、市の発展、地域の発展のために教育がどうあるべきか、学校を中心に地域の教育がここにどうあるべきか、などを考えれば、当然、1校が適当ではないかと考える。

(委員長) 50年間、これからきちっとした教育を保障するためには、学校施設は1つという意見で承る。

(委員) 2回目の参加となるが、東栄地区の皆さんの意見を把握していないので個人的な意見として申し上げる。小中一貫校に賛成である。児童が少ないこと、このことに尽きる。地域としては、学校が無くなった場合の跡地利用が一番大事であるので、その点を重要視して考えて頂きたい。

(委員長) 小中学校を1校にまとめるという意見で承る。

(委員) 論点②で3校そのまま存続の場合、小中一貫教育の効果は得にくいとなっている。鶴岡型小中一貫教育は、中学校区で1つの中学校で複数の小学校があるところでは、小中一貫教育の効果は得にくいということを言っているのか。そうであれば、市全体で小中一貫校という方向に向かっていくのか、もやもやしている。私としては、小中一貫校で1つにまとめるのが良いと思う。今日的な課題、子どものためを思って教育委員会で考えていることは大変良いと思うので、小中一貫校が良いと思う。

(委員長) こちらも1つの学校という意見で承る。

(委員) 第5回会議での各委員の意向が示されているが、私は判断がつかない委員2人の中に入っていると思うが、皆さんの意見や小中一貫教育の効果など聞いてきた。また、新庄の小中一貫校も研修し、素晴らしい効果が出ている部分はあると思いつつも、ただ本当に小学生のリーダーシップを発揮できる場面、時期が9年間の中での確に置くこと、先生たちがそのような場面を作っていくのが気になっていた。また、ギャップの解消も、小中一貫の効果として聞いてきたが、ゼロにはなっていないことなので、本当に効果がでるのかということに疑問があり、前回の会議では判断がつかない立場としている。個人的な話だが、ちょうど60年前の昭和38年、長沼中学校があった。私は小学6年生で卒業間近の3月に長沼中学校が焼失した。当時の6年生は49人1クラスで、もう2週間で中学校にあがるという時期に中学校が無くなり、藤島中学校に、急遽4月から通うこととなった。藤島中は1学年6クラスで、長沼小の49人は6クラスに分散した形となった。今になって考えると、9年間、同じ49人で義務教育を終えたときと、現実として3年間、1学年6クラスで勉強した私の人生を見た時に、果たしてどちらが良かったのかと考えると、やはり49人で9年間、学校生活、義務教育課程を送ったとすれば、今の自分はもっと違ったのではと思う。少なからず藤島中に行ったことによって、人間的には少しは成長したのではと思う。その意味で、9年間継続した場合、リーダーシップ性は中学校に行っても変わらなかったと思う。同じような人間が核となって中学3年間を過ごしたのではと思う。ただ3年間、藤島中に行ったことによって、本来、自分が見出せなかった可能性のようなものを自分が発見することができたと思う。その意味で、私は9年間一貫した義務教育学校は、どうもしっくりこない。小中一貫教育は教育現場の改革で、そういう時代だとしても、小学校は小学校でリーダーシップが発揮できた方が望ましいと思う。

(委員長) 小中併設で一貫校を作った方がベターかという意見か。小学校でリーダーシップを発揮できなくても、義務教育学校になった場合、さまざま区分等で工夫すればリーダー性が発揮できることは萩野学園の事例であったが、そのような事例を受けても、小学校は小学校という1つの区切りをつけて、中学校に行った方がよいという意見で承る。

(委員) 第5回会議の時と意見は変わらず、義務教育学校として藤島地域の全ての小中学校を全て一緒にしたほうが良いという意見である。アンケートでは保護者の一人として回答したが、私の一番下の子どもは小学4年生で、藤島中の改築時期や新しい学校の開校時期から見ても、おそらく新しい学校に入ることはないと思う。そのことから、小学3年生よりも下の子ども

たちが関わってくることになる。一番重視すべきは、これからその学校を利用する保護者がどう考えるかであり、アンケート結果で幼稚園・保育園に子どもを持つ保護者の意見は義務教育学校を希望する方が多い。また、小学校も全て再編した方が良いという意見の1つには、私自身がこれまで学校に通っていたときに、先輩や同級生と関わりの中で憧れや競争心など、多様な出会いの中で目標とするところがあった。それは、ある程度の規模があつてのことなので、経常的に複式学級が発生するような規模の学校で、これから学校に子どもを預ける保護者が本当に納得できるのかと感じている。地域に学校を残したいという意見も非常に大切にしなければならないので、その方々の不安になっているところには対応策を示していくことが重要ではないか。

(委員長) 実際に入学される年代のお子さんの保護者が一番望む形が義務教育学校で、その方向に行った方が良いのではという意見で承る。また、自分の目標とする人や人間関係等を育む上では、規模がある程度必要なので、その点から義務教育学校を選択した方が良いという意見で承る。

(委員) 論点①については、第5回会議の委員の意向の状況が今の状況と思う。個人的には、前回、通学の不安について話をさせてもらったが、先ほど事務局からお話し頂き、また、長沼地区説明会での質問に対する回答を見ると、子どもたちのことを考え、その時その時の子どもの状況に応じて対応していきたいという話を頂いているので、その点で、安心した部分が前回よりも大きくなった。論点②について、要は東栄と一緒になりたくないが、藤島と渡前と一緒にいるなどの話かと思うが、この場ではなく地域での話し合いになるのではないかと。論点③について、前回、長沼地区の話をお聞きし大変参考になった。実際に学校と一緒にあって、その後どのようになったのか気になっていたもので、長沼の取組みを参考とすれば良いのではないかと。

(委員長) 学校としては1つで良いという意見で承るが、実際の再編等については地域の合意を得る必要があるとのことで、事務局の考えと同じなので、その方向で進む場合は、当然、地域との意見も伺って尊重していかなければならないという形になる。

(委員) これから学校に入る親世代が義務教育学校を希望しているというアンケート結果が多いことに注目し、義務教育学校で話を進めていき、次回、その先の話ができただけの方が、もっと色々な意見などが出ると思うので、早めに絞った方が良い。個人的には義務教育学校で話を進めた方が、様々な不安はあると思うが、解決できる問題であると考え。先日、藤島夏祭りが盛大に行われた。鶴岡と合併した時に、藤島はどうなるのかと思ったところだが、今でも盛大にお祭りができるということは、地域の伝統など様々な不安の声は地域の熱量で何とか克服できると思うので、このまま話を進めていけば良いと思う。

(委員長) 義務教育学校という意見で承る。

(委員) 論点①については、義務教育学校で絞りたい。ただ併設型も良いかと思っていて、その理由は、統合される地域の渡前、東栄の子どもたちの取り巻く環境が、一気に変わり過ぎるということがあるので、小学校だけでまず統合した方が良いのかなという考えもあるが、5

0年先、未来を考えると義務教育学校で良いと思う。論点②については、小学校3つと中学校1つの全てが一緒に同じ校舎の組合せが良いと思う。学校再編によって閉校となる地区に対しては、様々な不安や、今から懸念が出ているので十分なケアをして頂きつつ、地域で不安となっている伝統芸能や行事などは自治振興会の方々が、長沼を好例としてバックアップして頂ければ絶やすことはないと思う。

(委員長) 義務教育学校という意見で承る。

(委員) 私は小中一貫校に賛成する。理由は、自分の子どもは年長で来年、小学校に入学するが、いなば幼稚園は、他の保育園と比べても子どもが少なく、各小学校に散った時に友好関係の広がり心配がある。一貫校で1つの学校にまとめた場合、友好関係を守ることができるので良い。もう1つの賛成の理由は、各地区で子どもが減っていて、東栄小や渡前小は複式学級ということもあり、1つにまとめて児童数を確保することが必要である。いなば幼稚園の説明会に参加したが、義務教育として小学1年生から中学3年生まで一人ひとり子どもに対して教育目標を持って一貫して取り組むということに魅力を感じている。その点からも小中一貫校で一貫してできることは良いと思う。論点②は割愛し、論点③については、スポなどで盛んに取り組んでいると思うので、各地区に分かれて、剣道、野球、バスケットボールで使っていけば良いと思う。

(委員長) 1校という意見で承る。

(委員) 論点①に関しては、小中一貫校、小中一貫教育で進みたい。併設型にしても教員が一貫教育の面で連携を取るのが難しいと思うので、一貫校にして特化した形がベストと思う。論点②に関しては、小中一貫校として4校再編、小学校再編という方向。通学対策では、自分の子どもは50分くらい歩いて通学しているが体力的な心配もない。通学も再編されることなのでこれから期待する。論点③について、具体的な対応は何とも言えない。自分は藤島小学校だったので何とも言えないが、十分な説明や理解を得られるような考え方を説明していけば良い。

(委員長) 義務教育学校という意見で承る。

(委員) この前、保護者役員会があり、その場で小中一貫校の話をしてみたが、小さい子どもを持つ保護者達は、どう思っているかというよりもお任せで、鶴岡市や委員を信用しているので、関心が無いわけではないが、きつとうまくやってくれるだろうと思っている保護者が多いので、アンケートの回収率は低いと思う。決して回答したくないではなく、子どもが少なくなっているのは身にしみてわかっているので、お任せしますという保護者が多いと思う。小さい子を持つ親としては、小中一貫というよりも、子どもが少ないことに不安があり、学校が一緒になることよりも、将来、子どもがいなくなってしまう不安が大きく、そう思っている人が多いと思う。先ほど入口で紙を貰ったが、この会議で少子化対策の話をする場ではないと思うが、小さい子を持つ親としては、学校よりも、これから子どもが少なくなることが怖い。

(委員長) 学校は1つという意見で受け止める。なお、少子化については、そこから問題が出発

しているところがあるので、何とか改善できたらと思うが、妙案がないというのが、この地域だけでなく全国的に同じと思う。

(委員) 義務教育学校に賛成である。併設型が良いという思いとして、小学校、中学校の時期の育ちを大事にして欲しいという思いは強いが、義務教育学校でもできない訳ではなく、その中で対応していけば解決できると考える。これから学校への入学に向けている保護者の皆さんが望んでいる方が多いというのも理由の1つである。私事だが、十数年前に、藤島こりす保育園の統合のことに携わった。その時も、小さい子どもを遠いところからという声がたくさんあったが、何とか子どもたちが育ってくれて、それを見て保護者の皆さんも理解してくれるようになってきたと感じている。子どもの良い教育環境を作ってほしい、より良い教育の中で子どもが育って欲しいという思いをもっている保護者の皆さんは、そういうことを目にしたときに良かったと思ってくれる。たくさん不安もあるかと思うが、1つ1つ解決に向けて進むことを願っている。

(委員長) 義務教育学校という意見で承る。不安等についてはソフト面でかなり、解消できるのではという発言であった。ご自身のご経験からもそう思えるとのことである。

(委員) 義務教育学校という意見である。理由は前回と同様に、校舎の老朽化など総合的に判断しても義務教育学校しかないのではないか。市内を見ても、羽黒では中学校が建っているし、他の地域を見ても義務教育学校は難しい。であるなら、藤島に義務教育学校で鶴岡でも最先端のものを藤島地域に作っていった方が良い。一度建てたらなかなか変えられないので、大事なのは、新しい学校ができたことで地域の子どもたちが増えるという方向性を皆で共有すること。子どもたちがいなくなった後の伝統をどうするかという話もあるが、20年位たてばその評価があると思う。その間、絶え間なく評価して変化させていくことが求められるので、現時点で、義務教育学校を考えている。

(委員長) 義務教育学校ということで承る。

(委員) 前回の会議では、現代的課題として少子高齢化、中一ギャップという問題から、併設型か義務教育学校のどちらかで、特例を生かしてメリットを生かして欲しいと言った。今日の資料No.3-3の表を見ると、その中で義務教育学校の想定規模が記されているが、現在の藤島の各学校で33クラスが、その後、18クラスに収まってしまい、第1回目の会議で示された少子化の速度がますます顕著で待ってられないという状況が見えてくる。1つの学校でも18クラスしかないのかというイメージである。特例を生かしてメリットを十分に発揮させるためには、より効果が期待できる義務教育学校が望ましいと捉える。

(委員長) クラス数については、3校が統合しても1学年2クラスしかならない。中学校も各学年2クラスしかならず合計18クラスと捉えている。急ぐべきという意見で承る。

(委員) アンケートは回収率が低いので、もう少しやり方があったのではないか。その中で、私は意外に併設型の意見が多かったという印象で、既存の学校と併設型を足すと義務教育学校よりも多いという所もあり、それを考えた時に、小中学生が同じ校舎ということを必ずしも望んでいる訳ではないのでは。義務教育学校の割合も高いが、併設型も結構多かった。その

中で、再編については地域の検討組織を設置するとあったのでそこで議論されるべきと思う。何をしてもメリットとデメリットはある。地域が広がると当事者意識が少なくなることや、例えば、義務教育学校で9年間となった時、身近に学校に行くことができない小学生がいるが、中学生を機に頑張ろうという気持ちになるようだが、そういうチャンスが無くなり、9年間行けなくなるのでは。もちろん中1から行けなくなることは解消できると思うが、どちらもあるのでは。小さい学校であればリーダー性が高まり、皆が当事者意識になることを感じるが、逆に、クラス替えができないということもある。いろいろなことがあるが、一番早く中学校を改築し、小中一貫教育を進めてもらいながら、再編や併設型、校舎一体型については時間をかけて考えた方がよい。義務教育学校にすとなれば、色々なデメリットを慎重に考えながら進めて、教員数を手厚くするなどして努力して良い学校を作ることは皆でできると思う。個人的には、いまだ判断はつかない。やったことがないことなので、どちらにもメリット、デメリットがある。

(委員長) 今までの会議でメリット、デメリットがあるということは説明頂いてきたが、総合しても判断がつきがたいという意見で承る。

(委員) 全部統合した上での義務教育学校に賛成である。どの選択をしても期待、不安、メリット、デメリットはここに書いてある通りだが、解決できる問題と解決できない問題がある。それを前提に考えた時に、少子化を止めることができたかという止まっていないし、これからも止められず、間違いなく加速していくので、このタイミングで1つにまとめることを決めた上で、デメリットや不安な部分は解決できる問題であるので、そこに皆で向き合えば良いのではないかと。私は4人の子を持つ親で、5歳、3歳、2歳、0歳なので、仮に併設型にしたとして、次の大規模改修の時までに本当に小学校に残っているのかどうか。建て替えることができず、結局、合併になるのであれば、今の（義務教育学校に賛成する）状態がベストかなと思う。

(委員長) 義務教育学校という意見で承る。中学校だけ先に改築すると、藤島地域の小学校で一番早いのは、藤島小が7番目で改築するまでに、さらに20年以上はかかるという話である。施設として50年間きちっと教育が保障できるようなものをこの機会に作ったほうが良いのではないかと考えた時に、小中一緒に改築できる義務教育学校が妥当という意見の委員が大半だったと思う。それだけで全て解決はできないので、併設型にもそれなりの魅力はあり、そちらの意見もあったので、その点も併記するような形で報告書をまとめていくことでどうか。具体的な表記は事務局にお任せしたい。一通りお聞きしたが、このことを付け加えて頂きたいなどあればお聞きしたい。

(委員) 義務教育学校と言っても中身は様々かと思う。学校の建て方では併設に近い建て方もできるので、それはこれからの課題であり、課題検討委員会というものを作っていけば良いと思う。後で同じ作業を二度するような作り方ではなく、今誤ってはならない方向性を、誤らない方向性に向けてやるのが一番の課題と思っている。様々な問題はあるが、それを含めて検討すべきと考える。

(委員長) 本日、藤島地域の小中学校の校長先生も来ている。藤島地域としての基本計画を作成するのは校長先生等が中心となっていくと思うので、今の指摘も留意頂いて、基本計画の中で検討して頂きたい。学校の再編については、義務教育学校になるとすれば、全て統廃合になるが、それが決まらないうちには組合せは出てこないと思うのでそれは抜きに。閉校になった場合の地区への対応については、委員から要望が出されていたので、それを報告書に記載して頂ければと思う。他にないか。

(委員) 参考資料で頂いたスクールバスの運行実績だが、1台では子どもにとっても負担が大きいのと思うので、運転手不足という問題もあるとのことだが、バスの台数を増やして貰えるような運行予定を作ってもらえれば、保護者も安心すると思うので、ご検討をお願いする。

(委員長) 通学および部活動の地域移行については、別の会合等で検討頂くとのことなのでよろしくお願ひしたい。他にないか。なければ、これで協議を終わりとす。

■次第4 その他

- ・教育長より、共産党鶴岡市議団からの申入れについて報告

3 会議資料一覧

- ・次第
- ・出席者名簿・席次
- ・資料No.1 鶴岡型小中一貫教育基本計画策定の進捗状況
- ・資料No.2—1～8 保護者説明会及び保護者アンケート結果
- ・資料No.3—1～3 第5回会議、保護者アンケート等を踏まえた論点整理
- ・参考資料1 藤島地域スクールバス R4 運行実績（最長のコース）
- ・参考資料2 藤島地域教育振興会議 開催経過と今後の予定
- ・(参考) 保護者アンケートご協力のお願ひ

4 欠席委員からの論点整理に関する意見（書面提出）

- 論点①「小中一貫校の形態について複数の意見（義務教育学校または併設型小学校・中学校）と、小中一貫校を開設しない意見（既存の学校のまま藤島中学校のみ改築）があるが、藤島地域教育振興会議としてどのように取り扱うか」について

(委員) 当初から小中一貫校の義務教育学校が望ましいと考えていた。これまでの小学校6年、中学校3年という、9年間の区切りが6年間と3年間という固定観念に囚われず、リーダーとなる機会も9年間の区切り次第では、チャンスも増えるのではないだろうか。(例えば4.3.2の区切り等) 現代の児童生徒は、心も身体も発育状態は昔とは変わっているし、私たちが義務教育を受けていた時代とは、取り巻く環境も大きく変化している。それと並行して保護者の考え方に対してもアンケート結果から柔軟さも感じる。まさに自分事と捉えている方たち

の意見を尊重したいと思う。懸念されている地域ごとの伝統行事に関しては、実際に藤島小学校に合併している長沼地域の方たちの意見が参考になるのではないだろうか。建物に関しては、少子化が加速する事が予測出来ており、これから減る事はあっても増える事は期待できない事を思うと、子供たちが満足出来る教育や環境が整っている校舎にして欲しいと願う。1つの学校施設だからこそ予算をかけられるというタイミングを逃さないで欲しい。

●論点③「学校再編が行われる場合、小学校が閉校となる地区に対し必要な対応は何か」について

(委員) 地域による不平等の偏りが無いよう、これからどんな事がデメリットとして考えられるのか改めて抽出し考えていくしかないのでは。学校が閉校となる地域に関しては、地域の連帯性や交流は図れるようコミュニティセンターのような地域住民が気軽に集える場所や避難場所となる主要施設の設置。(維持管理費等の負担は気になるが) また各地域の振興に従事するキーマンを配置し地域を活性化してもらえる立場を確立出来ると理想。

以上